

## 令和4年度を振り返って



栃木県中学校長会長  
宇都宮市立旭中学校長  
栗原 丈晴

令和4年度、そしてコロナ禍3年目が終わろうとしています。今年度は様々な教育活動をコロナ禍以前の状態にどこまで戻すことができるかという

挑戦の年であり、校長先生方におかれましては、情報収集と工夫、決断、説明の毎日であり、そうした中で絶えず学校としての責任を果たすべくリーダーシップを発揮されてきたことと存じます。

さて、今年度は9月6日に栃木県教育会館において「中学校教育75年記念式典並びに研究大会」を無事開催することができました。当日は、感染拡大への懸念や台風の状況などから開催が危ぶまれましたが、多くのご来賓をお招きし、歴代会長の皆様にも感謝状を贈呈することができました。歴代会長の皆様が控室で談笑する様子を見ると開催できて本当に良かったと実感しました。また、小山地区と那須地区の校長会の皆様による研究発表や放送大学栃木学習センター所長伊東明彦氏による「現代の日本の中学校教育を取り巻く現状と課題」と題した講演などを行うことができ、大変有意義な時間となりました。その後、記念誌の発刊なども滞りなく終了しました。これまで企画・準備・運営等に携わっていただきました実行委員をはじめ、事務局や県内の校長

先生方、そして、記念誌作成にあたり編集協力者としてご尽力くださいました諸先輩方に深く感謝申し上げます。

その他、本会の主な事業として、総会並びに研修会（5月）、理事研修会（4・7・11月）、県教委と小中学校長会との教育懇談会（8月）、県教委・県立高等学校長会との懇談会（10月）、理事協議員研修会（2月）、各専門部研修会等を実施しました。6月の関地区中埼玉大会では、第6分科会において上都賀地区校長会の皆様に研究発表をしていただきました。ありがとうございました。

また、今年度は県立高校入試改革や部活動の地域移行、中体連主催の大会へのクラブチームの参加など、学校教育の考え方や教職員の働き方などを大きく変える協議が本格化した年度であり、校長先生方には様々なご意見をいただき感謝申し上げます。今後の学校経営に大きくかかわる議案に対し、疑問を共有し、知恵を出し合いながら協議できたことは、校長会として大きな成果であったと受け止めております。令和5年度はコロナ禍3年間の実績を踏まえつつ、10年、20年先を見据え、様々な改革を大きく前に進める年になろうかと思えます。校長会の更なるご活躍に期待いたします。

結びになりますが、栃木県中学校長会にご支援、ご協力くださいましたすべての皆様に心より敬意を表し感謝するとともに、令和5年度が皆様お一人お一人にとって意義ある一年になることをお祈り申し上げます。

## 事務局だより

会員の皆様にとっては、今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症への対応で、大変苦労された一年間であったと存じます。しかしながら、少しずつ、以前のように対面での活動も戻りつつあり、学校行事等においても子どもたちの元気な声や笑顔が多くなってきたように感じられます。

こうした中、会員の皆様のご協力により、多くの

事業等を工夫しながら進めることができました。とくに中学校教育75年記念事業として記念式典を盛大に開催できたことは、皆様の総力の賜であり、改めて会員同士の結束力、連携の強さを感じました。また、記念誌も発刊することができ、本会の歴史に大きな足跡を残すことができました。

今後も会員の皆様からのご意見を大切に、本会が充実したものになるよう努めてまいります。

（事務局長 松本 良雄 事務局員 松井 昌子）

## ❖❖❖ 県教委との教育懇談会 ❖❖❖

総務部長 東 原 定 雄  
(宇都宮市立清原中学校長)

日時：8月4日 場所：ホテルニューイタヤ

今年度は、小・中校長会37名、県教委側は16名が出席し、ほぼ例年どおりの形で実施できました。

【中学校長会提案事項】 主な内容とその骨子

### 1 教職員人材確保と教職員配置の改善

- (1) 正式採用教員の確保（欠補の段階的解消、臨時的任用経験期間を考慮した特別選考の検討）
- (2) 免外及び臨免対応解消のための会計年度任用職員の増員・配置
- (3) 学力向上、生徒指導、不登校対応加配の拡充
- (4) 特別支援学級担当教員の育成と正式採用教員の配置の推進、並びに教員の配当基準の見直し
- (5) 個別支援充実のための会計年度任用職員増員
- (6) スクールカウンセラーの勤務日の更なる拡充と資質向上
- (7) 定年延長に係る、経験を生かせる勤務内容や異動等勤務条件の整備等
- (8) 教職員の勤務条件・待遇の改善

## 県教委・高等学校長会との懇談会

進路対策部長 荒 川 幸 広  
(上三川町立本郷中学校長)

令和4年10月5日(水)、栃木県教育会館において県教委、県高等学校長会と県中学校長会との懇談会を開催しました。そこで、①一日体験学習②出願手続き③入学者選抜方法④その他について、新規の要望及びこれまで要望してきたが多くの中学校長から根強く上がってきている要望を中心に、協議や情報交換を行いました。

主な回答は以下のとおりです。

### 1 一日体験学習について

開催日が近隣の普通科や同系統学科と重ならないよう、各高等学校から一旦報告された開催希望日を一覧表で示して、その後、各高等学校による調整期間を設けて日程を決定している。全てに応えるのは難しいが、できる限り要望に沿うように引き続き検討していく。

### 2 出願手続きについて

インターネット出願については、県全体のシス

### 2 確かな学びを育む教育の充実

- (1) 個別最適な学び、共同的な学びの推進のための環境整備
- (2) 一人一台端末の活用促進に資するICT支援員の配置

### 3 学校の働き方改革推進のための環境整備

- (1) 教員業務支援員の配置継続、専門能力スタッフの配置促進

### 4 アレルギー対応のための学校栄養職員の適正配置

- (1) 栄養職員の配置基準の引き下げ、及び食物アレルギー対応の充実を期した栄養職員の配置増

### 5 運動部・文化部活動の在り方に関する方針に基づく取組の推進

- (1) 運動・文化部活動指導員の増員と人材確保
- (2) 国の方針を踏まえた部活動の段階的な地域移行の推進と具体的なスケジュールの提示

### 6 その他

- (1) 教職員評価制度の改善
- (2) 研修等に係る出張旅費の確保

県教委からは、国への要望や県の施策の充実について可能な限り努力する旨の回答がありました。

テムに関係していくことになるので、改善に向けて費用と時間を要することをご理解いただきたい。

出願時の受理業務時間の短縮については、工夫した取組により改善が図られた事例等について情報共有することで更なる改善につなげたい。

### 3 入学者選抜方法について

特色選抜については、「県立高校の在り方検討会議」の提言の中でも、成果や意義は認められるが、中味や方法については改善を図っていくべきとの指摘もいただいている。令和4年度から有識者を含めた「入学者選抜制度改善検討委員会」を開催し検討を始めている。

二次募集については、現行の入学者選抜制度では入試日程が過密な状況になっており実施困難である。「入学者選抜制度改善検討委員会」の中で検討していく。

### 4 その他

新型コロナウイルス感染症への対策については、実施要項を出す際にガイドラインを示す予定である。

# 地区校長会だより

## 栃木地区中学校長会

栃木市は、栃木県の南部に位置する人口約16万人の市です。本市では、名誉市民である山本有三先生の「たったひとりしかいない自分を、たった一度しかない人生を、ほんとうに生かさなかつたら、人間、生まれてきたかいがないじゃないか。（『路傍の石』）」の言葉に代表される、「生命尊重・人権尊重」と「絆」を重んじる精神を教育の基本理念にしています。

小学校29校、中学校13校、合計42校で栃木市校長会を組織しています。毎月行われる市教委主催の定例校長会議の後に、市校長会全体研修会、市校長会小中学校部会別研修会を開催しています。ここの中学校部会の研修会が栃木市中学校長会の主な活動となります。

部会運営のキーワードは、心の底からなごみ和らぎあい、心を同じくして共に力を合わせ仕事や作業に当たることを意味する「和衷協同」であり、互い

に「共有」、「協働」、「協賛」できるよう情報交換や協議を重ねています。取りあげられる内容は多岐にわたっていますが、近年の課題である新型コロナウイルス感染症対策、タブレットの扱い方、熱中症対策などについてはこれまでのノウハウの蓄積が乏しく、他校の取組が大変参考になっています。特に新型コロナウイルス感染症については、残念ながら複数の感染者が出てしまった学校からその詳細な経過が時系列で示され、休業の判断に至った理由や、感染対策と事後対応の反省点なども示されました。これはその後の各校の感染症対策の大きな指針となっています。

このように、各校の様々な事例を全員で共有し、対策を協議し、それぞれの学校に持ち帰って自校化を図れたことは、まさに和衷協同であったと思っています。今後とも市内各中学校のよりよい学校経営に資するため、栃木市校長会ならではの共有、協働、協賛を継続させていきたいと思えます。

【栃木市立大平中学校長 廣田 昌英】

## 那須地区中学校長会

那須地区では、大田原市、那須町、那須塩原市の3市町のすべての小・中学校の校長が会員となる那須地区小中学校長会があります。

その下部組織として那須地区小学校長会、那須地区中学校長会が組織されており、中学校20校の校長が中学校長会の会員となっています。

研修部のメンバーが中心となって進める研究は、20人の校長が全員で関わりをもち、今まさに解決しなければならない喫緊の課題を研究テーマにし、課題解決に向けて地区全体で取組を継続することとしています。

これまでも「働き方改革」、「GIGA スクール」といったテーマを取り上げ、年間6回の全体研修会を開催してきました。そこで協議された内容は、研

修部員が、すべての校長にアンケートをとるなどしながら、更に研究を深めてきました。

毎年、秋には、小学校長会、中学校長会の研究の成果をまとめた研修録を完成させ、小学校長会の3事例、中学校長会の1事例を発表し、グループ協議や全体協議を行っています。

今年度は、「GIGA スクール構想の実現と学習指導の充実」というテーマの研究が最終年度となり、校長会として定期的に発行してきた「GIGA スクール通信」を含め、研修成果のまとめを共有することで、那須地区全体の教育の質の向上を目指しています。

新型コロナウイルス感染症が流行する中、地区中学校長会の団結がますます求められます。今後も力を合わせ、この難局を乗り越えたいと考えています。

【那須塩原市立西那須野中学校長 大平 功】

# 私の学校経営

## SDGs構想による「生きる力」の育成 ～地域との協働を通して～

宇都宮市立城山中学校長 新村 雅 司

本校は、宇都宮市の西部に位置し、学区である大谷町は、古くから大谷石採掘が盛んな地域であった。現在は、その大谷石文化が日本遺産に認定されている。また、学区内では多様な農畜産業があり、以前は地図記号の教材としても使われていた地域である。学校規模は、各学年3クラス、生徒数300名程度の宇都宮市内では小規模校である。生徒の生活態度は落ち着いており、総じて仲良く学校生活を送っている。一方、競争意識があまり高くなく、粘り強く取り組む力や自己表現を伴う発信力の育成に課題を残している。そこで、昨年度から地域の理解促進、地域づくりへの参画意識の醸成、地域との協働体制づくりを進めることとした。

### 1 城山中学校SDGs構想（3か年計画）

SDGs目標達成の2030年には、現中学生が社会人となり、他地区や他国の人たちとチームを組んで仕事に取り組んでいる時期である。そのた

めに、自分たちが住む城山地区の魅力等を理解し、SDGsへの取組を共通の話題にして、多くの人々との交流に自信をもって対応できる人間の育成を目指すものである。

（詳細は、城山中学校HPを参照）

### 2 地域貢献活動「城山あったか活動」の推進

平成9年度より始まった学校行事（地区コミュニティ協議会と共催）で、1～3学年を自治会単位の縦割り班編成にして清掃等の活動するものである。今年度からは「より良いまちづくり」をテーマに、中学生が地域の魅力と課題を話し合い、自分たちが出来ることを自治会長に提案し、互いに検討し、清掃活動や交流活動等を行う学校行事へと変容し、より地域との協働が図られるようになってきた。地域の方々がより良い生徒の変容を共有して生徒に係わることを通して、生徒が地域との繋がりを深め、将来の地域づくりの担い手となることが期待できる。

これからも、地域の豊富な教育資源に感謝して学校経営を進めていきたい。

## 自分で考え、判断し、実行する

鹿沼市立南摩中学校長 大 貫 雅 子

本校は、三つの山城の史跡をもつ緑豊かな環境の中、前任の安田校長先生が力を入れて取り組まれてきた地域と連携した体験活動が、生徒たちの豊かな学びの機会となっていることが特徴的な学校です。

私は、学校教育で育てていく「生きる力」を、「善悪の判断ができる知識」「人とつながる力」「一歩前が出る勇気」と具体的に捉えています。善悪の判断ができる知識とは、自分だけでなく互いのよりよい生活に向けた判断をするために必要な知識です。人とつながる力とは、互いの強みを生かして課題解決するための力です。一歩前が出る勇気とは、正しいと判断した事を実行するために必要な力だと考えています。この3つの力は、互いに関わり合いながら、経験の積み重ねで培われると思っています。そのためにも、生徒自身が根拠をもとに自分で考えて判断し、実行する学習機会を数多く設定していきたいと考えています。

今年度の経営方針を示すに当たり、職員には次の

5つのことをお願いし、実践してもらっています。

①生徒が職員に質問してくる際には、必ず「あなたはどうしたいですか？」と問い直しを行い、自分で考える場面に転じるようにする。②恒例となっている教育活動についても、「この活動は必要ですか？」という問いを生徒に投げかけ、活動の目的を生徒と共有してから始める。③生徒たちが判断に迷ったときは、必ず目的に戻って考え、判断できるよう支援する。④判断するにあたって必要な情報は、生徒たちが自ら収集するようにする。⑤何よりも、生徒に思考時間を与えずに答えを示したり、学習活動を作業化するような指示を出したり、生徒のつまづく機会を奪ったりしない。

そこには、あえて失敗を経験させることもありません。コロナ禍の中ではありますが、ピンチはチャンスと捉え、見栄えを優先せず、生徒が考え創り出した学習活動を積み重ねることを重視して、生徒の小さな成長の姿を職員で喜び合いながら、本校の「生きる力」の育成を図っていききたいと考えています。

## 学校経営の不易と流行

小山市立桑中学校長 高野 健一

本校は今年で創立75年目を迎える伝統校です。私が校長として着任してから4年、新型コロナによる臨時休業・行事の中止、「学校における新しい生活様式」や新学習指導要領の全面实施等、社会情勢や学校教育を取り巻く状況は大きく変化しました。その中での学校経営の一部を書かせていただきます。

### ○学校経営の基本方針「教育における不易と流行」

時代を超えて変わらない価値あるものとともに、時代の変化に即応して身につけさせる必要があるもの、つまり教育における不易と流行を見極め、適切かつ速やかに対応し学校経営をしています。さらに、「生命尊重・人権尊重を全教育活動の基盤に据え」、すべての教育活動は生徒のためにあるという基本理念のもと、「授業で鍛え、行事で育てる」ことを指針とし、「チーム桑中」として取り組んでいます。

#### 1. 第一義に生きる（働く）

(1) 教育の原点を大切に（職名・立場は違っても）

①生徒を大切にする。

②教えるべきはきちんと教え、育むべきは、手を出さずに育む。（社会化・個性化の教育）

#### 2. 新型コロナウイルス感染症に係ること

(1) 安心安全な学校生活の構築

①「新型コロナ学校運営ガイドライン」を遵守し、新型コロナ対策委員会を運用して組織で対応する。

②「形は心を整える」ことで、生徒を指導する。

#### 3. 授業で鍛える

(1) 「桑中学校学力向上プラン」に基づいた、本校の学力向上の推進

#### 4. 行事で（こころを）育てる

(1) 集団のかかわりの中での、個の育成

#### 5. 進取の気風をもつ教育

(1) GIGA スクール構想の実践

(2) 「地域運動部活動推進事業」指定校から、働き方改革やスポーツ医科学・ICT活用の部活指導

これらのことを学校経営の根幹とし、学校・家庭・地域で生徒の「生きる力」を育てています。

## 新任校長の一言

### 新任校長として

佐野市立常盤中学校長 岡本 桂馬

初めての赴任地区、16年ぶりの中学校、しかも、本年度閉校を迎える重要な年。様々な不安が押し寄せつつも、十分な準備ができないまま、迎えてしまった4月1日。勤務先の玄関を開けると、目の前に広がる熱烈歓迎のメッセージ、職員室での教職員の明るいあいさつ、校長室に飾られた美しい花々を目の当たりにし、驚きと喜び、責任の重さなど、様々な感情がこみ上げてきたのを思い出します。

本校は全校生徒43名、周囲を山々に囲まれた自然豊かな小規模校ですが、年度当初は、校内で新型コロナウイルス関連の対応に迫られました。教職員との情報共有、教育活動の見直し、保護者への連絡、学校医への相談など、安全・安心を念頭に、一つ一つの作業を教頭と確認しながら、対応しました。

また、中体連では卓球専門部を任せられ、夏の総体会場探しから始まりました。感染症や熱中症対策、保護者観覧等の諸課題について悩んでいたところ、助けてくださったのは中学校長会の皆様でした。校

長会で親身になって協議していただき、日程変更と2校の会場提供で対処することになりました。大会当日も、各会場校では、校長先生方のリーダーシップの下、きめ細かな対策を講じてくださっており、学校運営の一端を学ぶ貴重な機会となりました。

さらに、働き方改革、閉校・開校準備等、課題の多い毎日ですが、「生命・人権」「学ぶ楽しさ」「感謝」を柱に、本校の指針「みんなの心に輝く学校」となるよう、一つ一つの小さな活動を大切にしています。コロナ禍で制限されていた活動も再開し、体験による学びが、人を成長させることを実感しています。

本校での生活も残りわずか。来春開校する「葛生義務教育学校」や新天地に自信をもって進めるよう、生徒たちと共に、私たち教職員も力を付けていこうと話しているところです。



## 新任中学校長として

塩谷町立塩谷中学校長 青木 均

昨年度（R3）4月、自分は新任小学校長として塩谷町に赴任しました。初めての小学校勤務でしたので、孫のように可愛い児童の日々の成長が楽しみでした。

今年度（R4）は新任中学校長として、同町内への異動ではありましたが、心機一転、教職員や生徒の新たな出会いを大切に、「落地成根」の精神で、一年一年を精一杯職務に専念しようと心の中で誓いました。

4月1日、学校教育目標や学校経営の方針等は昨年度のものを継続しましたが、「スタートに当たって」と題し、A4・1枚に経営の理念や目指す学校像・生徒像・教師像を具体的に示しました。

そのA4資料を踏まえ、「学校だより」は前任者の思いを大切に、小生は文才が劣るため、写真やイラストを多く入れ、シンプルに文章を構成し配布

してきました。

そして、本町の教育的課題と本校の学校課題を解決するため、本校の実態や強み・弱み等を分析し、全職員で対応策を考えました。偶然にも、同町で小学校と中学校を経験させていただく機会を得ましたが、的確な分析と実践ができるかどうかは定かではありません。言えることは、課題の解決には相当の時間や自分以外の労力が必要になるということです。ただ、決して諦めずに、取り組む「覚悟」もあります。限られた時間や人材等の条件の下、生徒や家庭、地域の期待に応えられるよう、できることを1つでも2つでもやる。周囲の助言にも耳を傾け、生徒や保護者に紙面などで周知する。このようなマネジメントを小さく粘り強く回すことを考えています。

こんな風にして、今年度、新任中学校長としての「小さな挑戦」に取り組んでいます。

## 新任校長として

真岡市立久下田中学校長 大平 秀明

4月1日、辞令を受け、緊張感とともに校門をくぐる私を、晴れわたる青空と満開の桜が迎えてくれました。部活動の試合等で何度も訪れた中学校ですが、この日に坂道を上がる思いは別のものでした。

今も続く新型コロナウイルス感染症の拡大。その対策を講じながら教育活動を進めるにはどうしたらよいか日々考えました。昨年までは、「校長先生にお伺いをして…」と考えていた立場でしたが、今は「校長として判断する」という職責を実感させられています。修学旅行や運動会、保護者会や文化祭と、参加する人数や活動環境は様々ですが、安全を確保しながら教育活動を展開する難しさを感じました。その度に「予測困難な時代とも言われる将来を、たくましく生き抜く子どもたちに身に付けてほしいことは何なのか」を根本において、向かい合ってきたつもりです。また、会場の関係で全校保護者が一堂に会する講演会を開催することができないため、ICT機器（生徒1人1台タブレット端末）を活用して、その内容を配信し、視聴後にはアンケートへ

回答できるよう設定を行いました。新たな試みでしたが、多くの保護者から貴重なご意見をいただき、今後の学校経営に生かしたいと思います。

教育や子育てに100点の正解はないと考えています。AI・人工知能の急速な発達、キャッシュレス化による流通市場の変容など、私たち大人が経験してこなかったことが当たり前となっていくこれからの時代、様々な人々と直接関わることから体験する学びは人生の糧となるはずです。親も教師も、そして地域の方々も「子どものために…」と願う気持ちや思いは同じです。手を取り合いながら、健全な人づくりを遂行できるよう取り組んでいきたいと思えます。

「こんにちは」と明るく挨拶をしてくれる生徒の笑顔に、「この久下田中学校で精一杯頑張ろう」と元気をもらいながら…。

